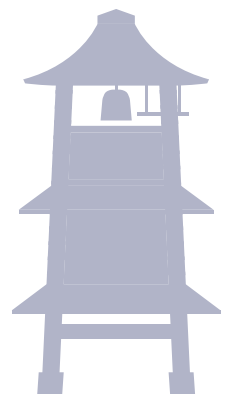


基本構想

令和8(2026)年度～令和17(2035)年度



1 都市づくりの目標

(1) 将来都市像

「川越市民憲章」の考え方を尊重し、社会状況の変化を踏まえた上で、本市の目指すべき姿、10年後の川越市が表現された姿として、以下のとおり将来都市像を定めます。

将来都市像

ずっと安心、もっと幸せ、魅力あふれるまち 川越

本市は、多くの人々を魅了する歴史的遺産や文化、豊かな自然などに恵まれ、先人たちのたゆまぬ努力によって、県西部地域の中心都市として、大きく発展してきました。

一方、将来に向けては、更なる少子高齢化や本格的な人口減少などの中で、これまでどおりの社会や暮らしを維持し続けることが難しくなることも懸念されます。

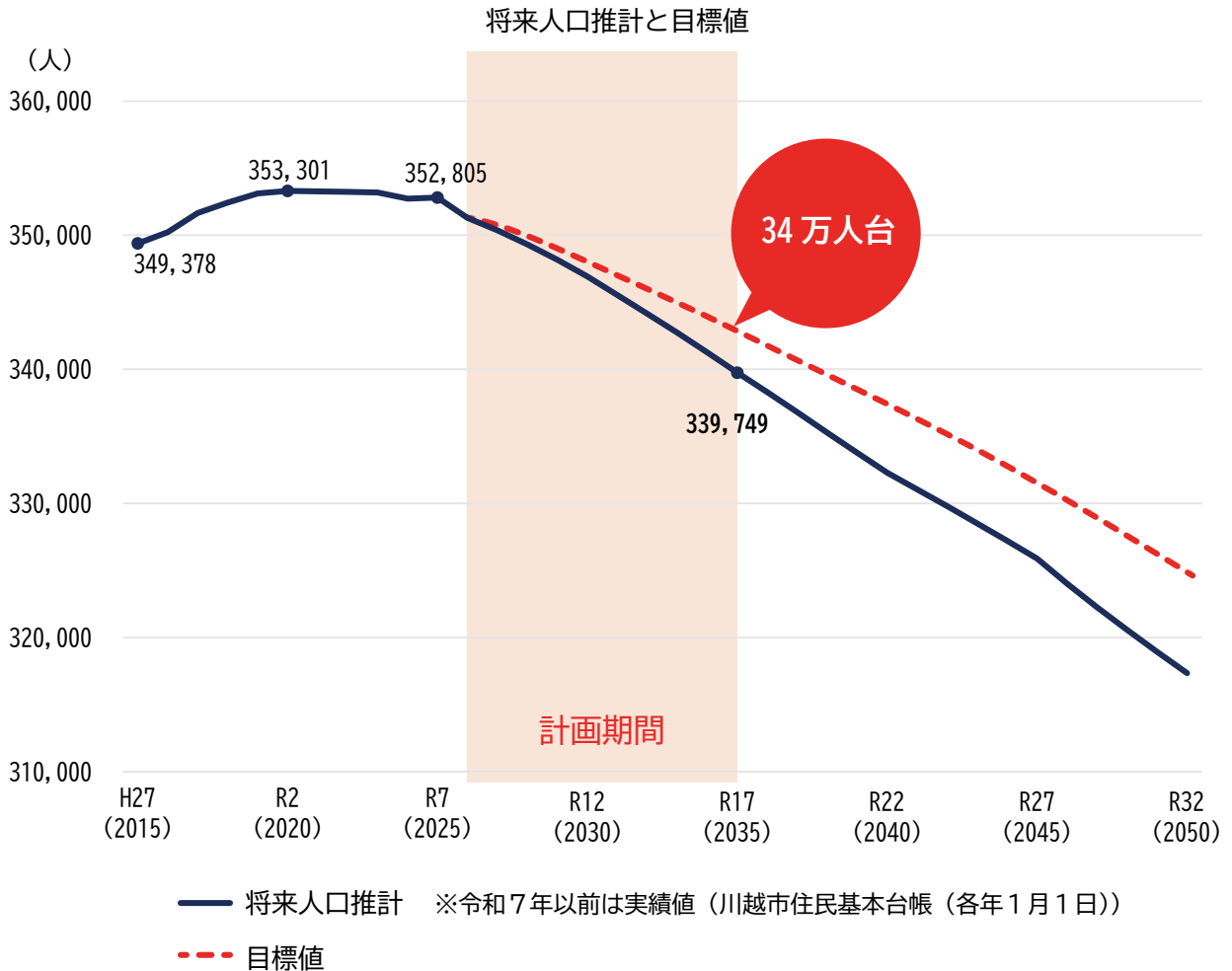
こうした中であっても、先人たちが幾多の困難を乗り越えてきたように、私たちもまた、本市を更に発展させられるよう努力し、今以上に良いまちとして次世代に引き継いでいかなければなりません。

本市が、10年後、更にその先も、安心して幸せに暮らせる魅力あふれるまちになることを目指し、行政だけでなく、市民、事業者等、本市に関わる全ての人の知恵と力を結集して、まちづくりに取り組んでいきます。



(2) 将来人口

本市の将来人口は、令和 17（2035）年に 34 万人を割り込むと見込まれていますが、「第五次川越市総合計画」の施策を確実に推進し、34 万人台を維持することを目指します。



(3) 基本目標

将来都市像を実現するために、8つの政策分野別に基本目標を定めます。

なお、「⑧協働・行財政運営」については、市の政策全体に関わり、①から⑦の基本目標の実現を下支えするものとして位置付けます。

分野別の基本目標

①こども・子育て

こどもや若者が将来に希望を持って自分らしく成長できるまち

②福祉・保健・医療

生涯にわたって、健やかでいきいきと安心して暮らせるまち

③教育・文化・スポーツ

共に学び、ふれあい、豊かな人生を送れるまち

④都市基盤・生活基盤

多くの人が集い行き交う、暮らしやすく魅力あふれるまち

⑤産業・観光

にぎわいと活力を生み出し続けるまち

⑥環境

環境にやさしく、人と自然が調和するまち

⑦地域社会・安全安心

地域でつながり支え合える、安全安心なまち

⑧協働・行財政運営

活発な連携・協働と持続可能な行財政運営を行うまち

2 分野別の方向性

①こども・子育て

こどもや若者が将来に希望を持って自分らしく成長できるまち

少子化の進展や経済的な不安の高まり、共働き世帯の増加、地域のつながりの希薄化など様々な社会状況を背景に、こどもや若者、子育て家庭を取り巻く環境が大きく変化しています。こうした中において、こどもや若者が健やかに成長でき、安心してこどもを産み育てられる環境を整えることは大変重要です。

本市では、こどもや若者が置かれた境遇にかかわらず幸せに生活できるよう、それぞれの視点に立った支援を行うとともに、子育て家庭が大きな不安や負担を抱えることがないよう、妊娠期からの切れ目のない支援の充実を図ります。あわせて、地域全体でこどもや若者、子育て家庭に寄り添い支える意識や体制をつくるなど、こどもや若者が将来に希望を持って自分らしく成長できるまちづくりを進めます。

②福祉・保健・医療

生涯にわたって、健やかでいきいきと安心して暮らせるまち

今後、人口が減少する一方で、医療や介護を必要とする高齢者の人口は更に増加すると見込まれており、医療や福祉の担い手不足が懸念されています。こうした中において、誰もが自分らしく充実した生活を送れるようにするために、健康の維持増進や、身近な地域での支え合いが一層重要となります。

本市では、誰もがより長く元気に活躍し続けられるよう、市民の暮らしの基盤である健康を守る取組を進めます。あわせて、年齢や障害、疾患の有無などにかかわらず安心して生活できるよう、地域住民や専門機関などの多様な主体が連携した包括的な支援体制の充実を図るなど、生涯にわたって、健やかでいきいきと安心して暮らせるまちづくりを進めます。

③教育・文化・スポーツ

共に学び、ふれあい、豊かな人生を送れるまち

グローバル化や技術革新が急速に進み、より一層変化が激しく予測が困難な時代となる中、こどもたちが社会の変化に向き合い、自らの手でより良い社会と豊かな人生を創っていきけるよう、成長を後押ししていくことが必要です。

本市では、全てのこどもが、個性や興味・関心に応じて主体的に学習し、多様な他者との対話を通じて学び合いながら成長していきけるよう、学校と、地域や家庭が連携・協働して質の高い教育を実現することで、次代を担うこどもたちの生きる力を育むまちづくりを進めます。

また、人生100年時代を見据える中で、長い人生をより充実したものとするために、生涯にわたって、学びや文化芸術、スポーツに親しむことは一層重要となっています。

本市では、多くの人々が、学びや文化芸術、スポーツを身近に感じ、気軽に取り組める環境を整えることや、地域の人々と共に郷土の伝統を守り伝えていくことなどを通じて、あらゆる世代が楽しみながら交流を深め、豊かな人生を送れるまちづくりを進めます。

④都市基盤・生活基盤

多くの人が集い行き交う、暮らしやすく魅力あふれるまち

今後見込まれる人口減少によって、商業施設、公共交通などの利用者が減少し、これらの都市機能が維持できなくなることや、老朽化する道路、上下水道等の維持管理が困難となり、事故の危険性が高まることなどが懸念されます。こうした中であっても、まちの活力を維持・向上させていくために、暮らしを支える都市基盤を、時代の変化に合わせて整備していくことが必要です。

本市では、生活利便性が高く魅力的な都市であり続けるために、市民や事業者などと協働しながら、都市機能の集約化と利用しやすく効率的な交通ネットワークの構築を図るとともに、蔵造りの町並みをはじめとした魅力的な都市景観の形成を進めます。あわせて、安全で快適な生活を送れるよう、インフラ施設の効率的な維持管理や災害対策、集い憩える公園の整備を計画的に実施するなど、多くの人々が集い行き交う、暮らしやすく魅力あふれるまちづくりを進めます。

⑤産業・観光

にぎわいと活力を生み出し続けるまち

少子高齢化や人口減少によって、労働力不足の深刻化や市場規模の縮小が懸念される中であって、本市が将来にわたって持続的に発展していくためには、地域経済の活性化を図り、産業競争力を向上させていくことが欠かせません。

本市は、農業、工業、商業がそれぞれに発展しているとともに、多くの観光客が訪れる観光地でもあります。こうした特性を生かし、関係機関との連携を図りながら、まちの発展を支える事業者を支援するとともに、歴史的建造物や自然景観、農産物などの地域資源を活用した新たな魅力創出を図ります。あわせて、本市の経済に更なる好循環をもたらす企業を積極的に誘致するとともに、就業や創業を支援し、誰もが活躍できる環境を整えるなど、にぎわいと活力を生み出し続けるまちづくりを進めます。

⑥環境

環境にやさしく、人と自然が調和するまち

地球温暖化に起因する気候変動の影響で、世界各地で大規模な自然災害が発生するなど、環境問題は私たちの生活に大きな影響を及ぼしています。こうした中であって、健全で恵み豊かな環境を将来世代に引き継いでいくために、環境負荷の少ない持続可能な社会を築いていかなければなりません。

本市では、環境負荷を軽減すると同時に暮らしの質を向上させることができるよう、脱炭素化をはじめ、資源の循環利用や廃棄物の適正処理、豊かな緑や生物多様性の保全など、様々な課題に対して市民や事業者、民間団体と協働で取り組んでいきます。あわせて、大気、水、土壌などの汚染による健康被害が生じないよう、良好な生活環境を保全するなど、環境にやさしく、人と自然が調和するまちづくりを進めます。

⑦地域社会・安全安心

地域でつながり支え合える、安全安心なまち

ライフスタイルの変化や価値観の多様化などを背景に、人と人とのつながりが希薄化する中であって、地域の支え合いの力を維持・向上させることは、日常生活はもちろん、災害などの非常時への備えとしても大変重要です。

本市では、誰もが互いを尊重し合いながら、地域での関係を築いていけるよう、地域交流の促進や地域活動の支援などに取り組み、支え合える地域づくりを進めます。また、安全で安心な日常生活を送れるよう、地域や関係機関等と連携しながら、犯罪や交通事故の防止に取り組みます。あわせて、大規模災害等による被害を最小限に抑えるため、あらゆる事態を想定した防災体制の充実と、自助・共助の促進を図るなど、地域でつながり支え合える、安全安心なまちづくりを進めます。

⑧協働・行財政運営

活発な連携・協働と持続可能な行財政運営を行うまち

少子高齢化の急速な進展など社会状況の変化を背景として、市民ニーズや地域課題が多様化・複雑化する一方、行政における財源や職員数などの制約は更に厳しくなると想定されます。こうした中であっても、将来にわたって、市民生活を安定的に支え続けていくために、まちづくりの土台をより強固なものにしていくことが必要です。

本市では、限られた経営資源の下で、地域課題の解決や行政サービスの向上を図るため、組織力の強化やDXを推進するとともに、市民、事業者、近隣自治体などとの連携・協働を進めます。また、多くの人や企業から選ばれる自治体となるよう、効果的な情報発信を行い、都市イメージの向上を図ります。あわせて、厳しい財政状況の中、更なる歳入確保を図るとともに、より効果的・効率的な事業実施や、公共施設の再編に取り組むなど、活発な連携・協働と持続可能な行財政運営を行うまちづくりを進めます。

3 将来都市構造

(1) 基本的な考え方

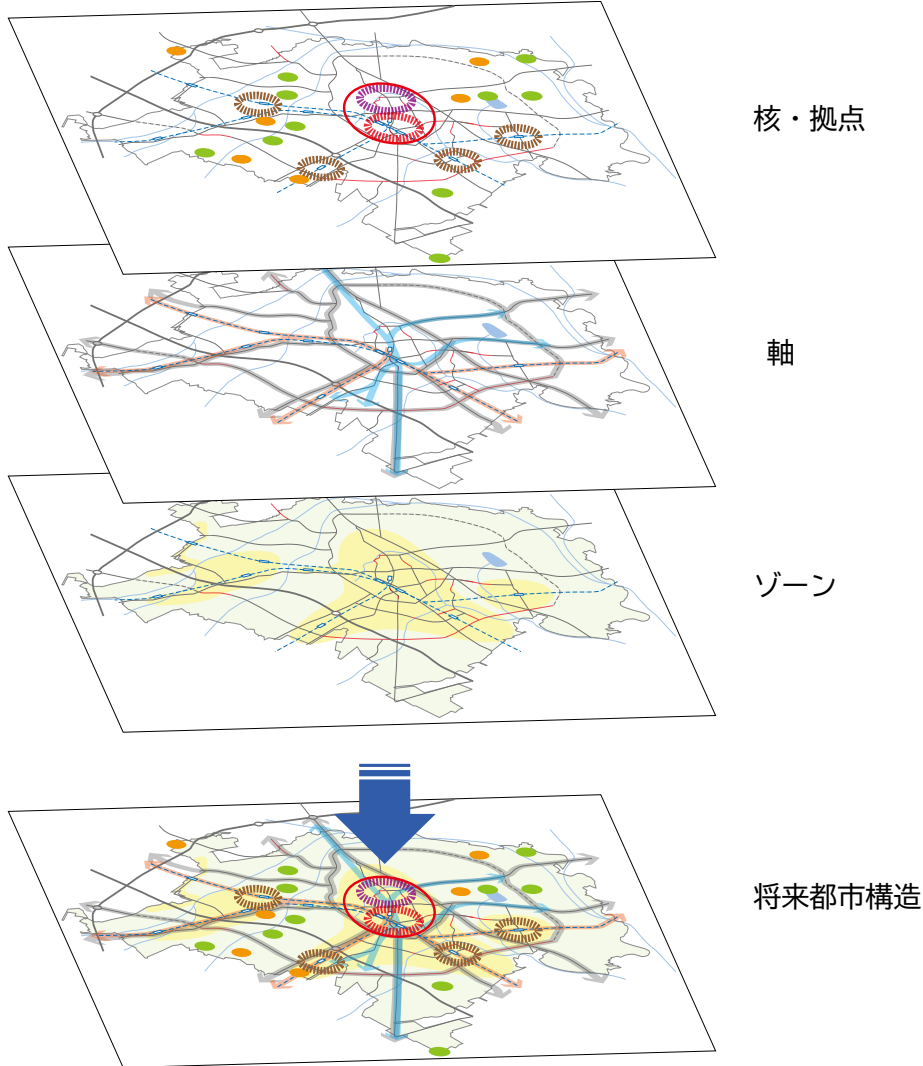
将来都市構造は、将来都市像の実現に向けて、目指すべき都市の骨格を示すものです。今後、少子高齢化の急速な進展、本格的な人口減少の到来などが見込まれる中、誰もが安心して幸せに暮らし続けられる持続可能な都市とするため、自然との調和を図りながら、都市機能の集約化とネットワーク化を促進し、多極ネットワーク型の都市構造の構築を進めます。

(多極ネットワーク型の都市構造)

多極ネットワーク型の都市構造とは、鉄道駅周辺などの複数箇所に、商業や医療などの各機能が集積する拠点形成され、住民が徒歩や公共交通などでそれぞれの拠点に容易にアクセスできる都市構造のことです。

(2) 将来都市構造

目指すべき将来都市構造について、様々な機能が集積する箇所を示す「核・拠点」、交通ネットワークを示す「軸」、土地利用の在り方を示す「ゾーン」の3つの構成要素で整理します。



ア 核・拠点

県西部地域の拠点としての都市機能や歴史的な文化遺産が集積している地域を「都心核」、交通条件等によって地域の生活や経済活動の拠点となっている地域を「地域核」と位置付け、市民生活や都市活動を支える都市機能の集約化を進めます。

また、産業が集積している既存工業団地等を「産業拠点」、水辺や樹林地などの自然を生かした公園等を「水と緑の拠点」と位置付け、それぞれの役割に応じた活性化を図ります。

● 都心核

本市の中央部に位置する三駅（川越駅、本川越駅、川越市駅）周辺から北部市街地に至る中心市街地を「都心核」と位置付けます。

このうち、三駅周辺は「都市的活動核」と位置付け、商業や業務等の機能の充実を図ります。また、歴史的建造物のある北部市街地は「歴史・水・緑核」と位置付け、商業、文化、観光等の機能を高めた都市空間の形成を図ります。

● 地域核

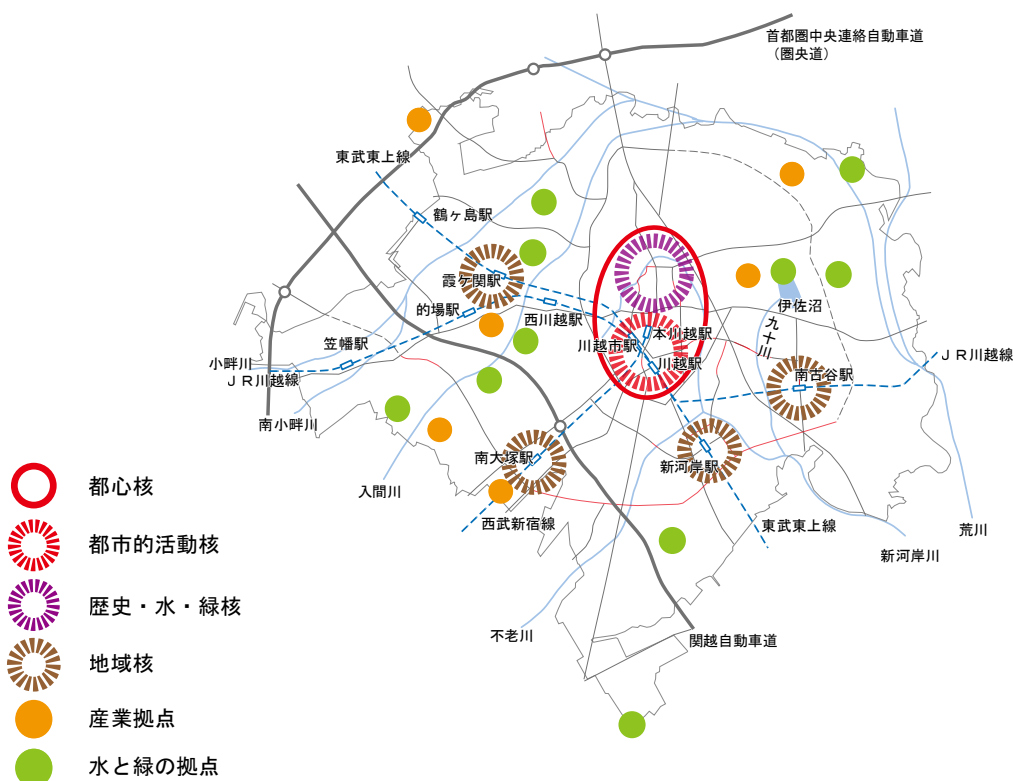
霞ヶ関、新河岸、南大塚、南古谷の各駅周辺を「地域核」と位置付け、地域社会の経済活動など市民生活の基盤として、地域特性に応じた市街地の形成を図ります。

● 産業拠点

川越狭山工業団地、富士見工業団地、川越工業団地、川越第二産業団地、的場地区の工場集積地、川越増形地区産業団地及び問屋町地区を「産業拠点」と位置付け、市内経済を支える基盤として、産業拠点の形成を図ります。

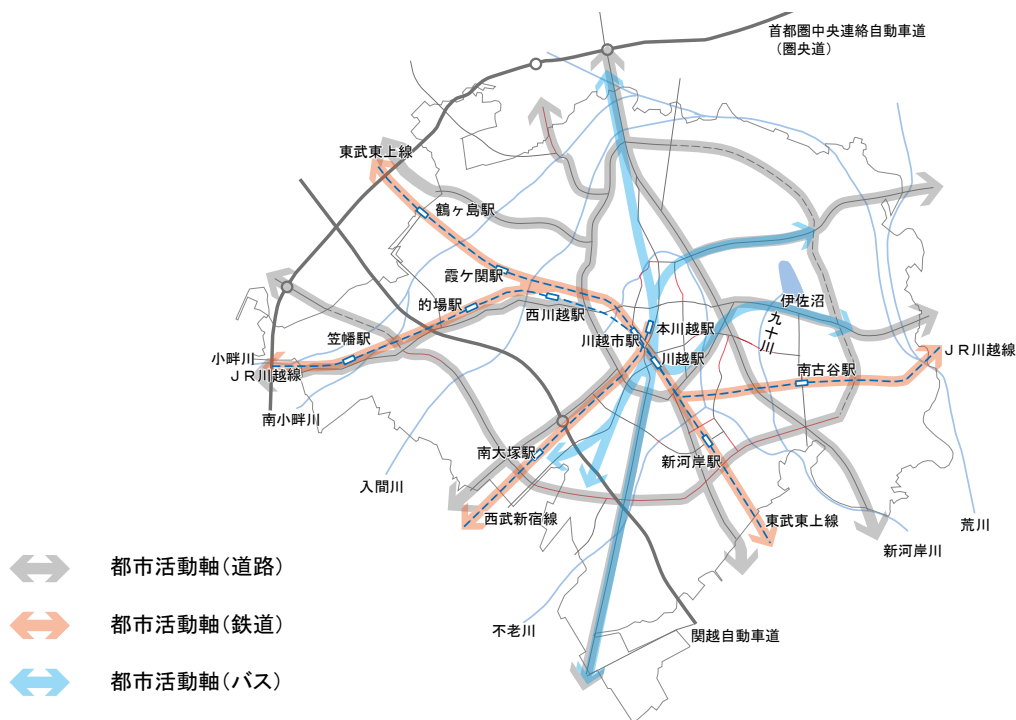
● 水と緑の拠点

入間川、伊佐沼等の水辺や大規模な樹林地などの豊かな自然を生かした公園等を「水と緑の拠点」と位置付け、潤いのある市民生活を支える拠点として整備するとともに、面的なまとまりのある緑地の一体的な保全を図ります。



イ 軸

都心核、地域核及び各拠点間の連携や、他都市との広域的な連携を図る上で重要な役割を担う幹線道路と公共交通を「都市活動軸」として位置付け、これらの整備や機能強化により、移動の円滑性や利便性の向上を図ります。

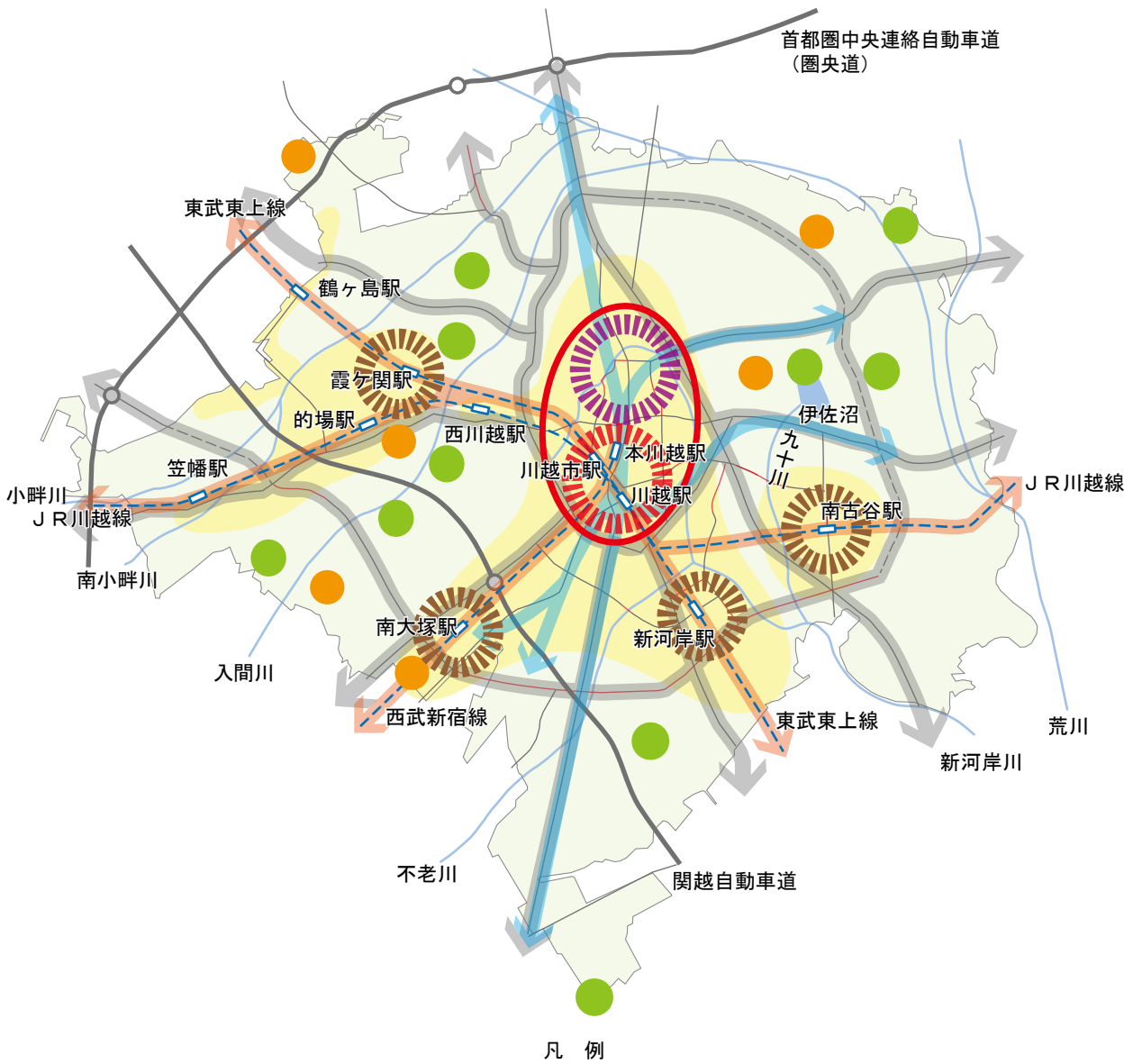


ウ ゾーン

鉄道駅を中心として、住宅地や商業地などの都市的な土地利用を図る地域を「地域活動ゾーン」と位置付け、快適な都市活動ができる市街地整備を推進します。また、樹林地や農地、水辺等の豊かな自然環境と集落が共生する地域を「自然共生ゾーン」と位置付け、豊かな自然を保全するとともに、周辺環境との調和に配慮した計画的な土地利用を図ります。



将来都市構造図



<核・拠点>		<軸>		<ゾーン>	
	都心核		都市活動軸(道路)		地域活動ゾーン
	都市的活動核		都市活動軸(鉄道)		自然共生ゾーン
	歴史・水・緑核		都市活動軸(バス)		
	地域核				
	産業拠点				
	水と緑の拠点				
			高速道路・インターチェンジ		鉄道・駅
			主要幹線道路 (一般国道、主要地方道等)		主要幹線道路 (未整備路線(現道なし))
			主要幹線構想道路*		河川・沼

*主要幹線構想道路：構想路線であり、具体的なルート・位置等は未定。